

# 早池峰山固有種ナンブトウウチソウの果序を食害するネズミ

鈴木まほろ

*Apodemus* sp. feeding infructescence of *Sanguisorba obtusa* Maxim. (Rosaceae), an endemic plant species of Mt. Hayachine

Suzuki MAHORO

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.

## Abstract

During the summer of 2019, park rangers found a lot of infructescence stalks of *Leontopodium hayachinense* and *Sanguisorba obtusa* cut on the south and the ridge of Mt. Hayachine. I set up three infrared-triggered cameras around the mountain trail. One of the cameras captured an *Apodemus* sp. mouse climbing and nibbling an infructescence stalk of *S. obtusa* at five different times.

## 研究の背景と経緯

岩手県の中央部に位置する早池峰山の偽高山帯には、4つの固有種と1つの固有変種をはじめ、多くの稀少な植物が生育する。これらは複数の法によって保護されているが、盗掘や盗採が絶えないため、自然公園保護管理員が毎日巡視を行っているほか、休日にはボランティアによる巡視も行われており、登山道沿いの植物に何らかの変化があれば、県自然保護課へ報告が行われる仕組みが整っている。

2020年7月20日、早池峰山小田越登山道沿いの標高1,800m付近において、固有種のハヤチネウスユキソウの1株で数本の花茎が切り取られているのが発見された。8月3日、同じく小田越登山道の標高1,650m付近において、やはりハヤチネウスユキソウの花茎が複数切り取られ、頭花が消失しているとの報告があった。

はじめは人による盗採が疑われたが、日が経つにつれて被害個体の数が増加し、範囲は山頂部にまで徐々に広がっていった。さらに、8月11日には河原坊登山道沿いでも同様の現象が起きていることが確認され、21日には標高1,800m以上の稜線でも多数の切断された花茎が見つかった。なお、周囲には切断後の果序やその残骸などは全く見られなかった。

筆者はこれらの情報を得て、原因を動物による食害と推定し、加害動物の特定を行うことを目的に、付近

に赤外線センサーカメラを設置することにした。

なお8月27日頃にはハヤチネウスユキソウの頭花が完熟して種子散布が始まり、新たな被害は見られなくなった。しかし同日、山頂付近でナンブトウウチソウの花茎の切断が確認され、その後ハヤチネウスユキソウと同様に、被害個体の数が徐々に増加していくのが観察された。

## 方法

2020年8月下旬から10月16日の間、早池峰山小田越登山道から約5m離れた場所に、赤外線センサーカメラを3台設置した。設置場所と設置日はそれぞれ、カメラA:登山道西側の標高1,580m付近;8月27日、B:登山道東側の標高1,800m付近;8月31日、C:山頂西側1,900m付近;8月31日であった。いずれも登山者が写ることがないように、登山道にカメラの背面を向けて設置した。設置にあたっては、文化庁及び所管の森林管理署、ならびに岩手県の許可を得た。

使用したカメラはFositan社(中国)製の赤外線センサーカメラである。トリガースピードは0.2~0.6秒、検知角度は120°であった。1回の撮影インターバルは30秒、連続3枚撮影に設定した。カメラのカードは1ヶ月に1回程度回収し、撮影データを確認した。

## 結果

カメラ A により、ナンブトウウチソウの花茎に上り、茎をかじるネズミが計 5 回撮影された (図)。撮影日時は、8 月 28 日午前 1 時 54 分、31 日午前 1 時 55 分、9 月 1 日午前 1 時 11 分、5 日午前 0 時 57 分、9 日午前 0 時 20 分であった。ネズミはアカネズミまたはヒメネズミと同定された。

カメラ B では、オコジョとカモシカの親子が 1 回ずつ撮影されたが、いずれも植物への食害は認められなかった。カメラ C では哺乳類は全く撮影されなかった。

## 考察

ナンブトウウチソウの花茎を切断し持ち去っていたのは、アカネズミまたはヒメネズミであることが、自動撮影カメラにより明らかになった。切断されたのはナンブトウウチソウの開花が終わった頃であった。

一方、ハヤチネウスユキソウの花茎を切断した動物は、カメラの設置が間に合わず特定できなかった。しかし、食害の発生時期が連続していることや、両種とも食痕があるのは花茎のみで周りの葉には全く無く、かつ果序が持ち去られていることなどから、ナンブトウウチソウと同様にネズミが食害を行った可能性が高いと考えられる。

これまで早池峰山において、多数の花が哺乳類に食害されたという報告はなかった。なぜ 2019 年に限ってこのような現象が発生したのだろうか。

原因として考えられることは、ハイマツの大凶作である。2017・8 年はハイマツが豊作であったが、2019 年には全く結実が認められなかった。ハイマツには年によって群落レベルの豊凶があり、3~4 年または 3~5 年周期で豊作と凶作を繰り返す、ほとんど結実しない大凶作があることも知られている (中新田 1995, 助野 2005)。ハイマツの大凶作によって早池峰山の偽高山帯に生息するネズミの餌不足が発生し、草本の種子を大量に食べるという行動が引き起こされたのかもしれない。

中新田 (1995) 及び助野 (2005) ではハイマツの大凶作は 2 年続いている。ハイマツでは受粉から種子成熟までに 1 年以上の時間がかかるため、成熟前年の秋にはすでに未熟な果実が枝先に見られる。2019 年秋に早池峰山でハイマツを調査した結果、2020 年に熟すはずの果実の数は多くなかった。したがって、2020 年夏にもネズミの食料不足が発生し、草本の花序の食害が

起きる可能性がある。2020 年には春からカメラを設置し、より詳細な記録に備える予定である。

## 謝辞

本調査は、早池峰自然公園保護管理員の皆様の御協力を得て実施しました。また調査にあたり、岩手県環境生活部自然保護課、岩手県教育委員会、三陸北部森林管理署、岩手南部森林管理署遠野支署に便宜を図っていただきました。国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所の島田卓哉博士には、写真によるネズミの同定をしていただきました。心より感謝を申し上げます。

## 引用文献

- 中新田育子 (1995) 「球果痕」から復元したハイマツ球果の豊凶周期と生産様式。日本生態学会誌 45: 113-120.
- 助野実樹郎 (2005) 大雪山・高根ヶ原の風衝砂礫地におけるハイマツの年枝伸長量と球果生産。北方山草 22: 44-51.

## 要 旨

2019 年 7 月下旬から 9 月上旬にかけて、岩手県中部に位置する早池峰山の南面及び稜線において、早池峰山固有種のハヤチネウスユキソウとナンブトウウチソウの花茎が多数切断され、果序が持ち去られた。8 月下旬からセンサーカメラを 3 台設置し撮影記録を行ったところ、そのうち 1 台のカメラで、ナンブトウウチソウの花茎に上り、茎をかじるネズミの姿が 5 回撮影された。

キーワード：高山植物、ネズミ、食害、稀少種、固有種。

図 センサーカメラによって撮影された  
ナンブトウチソウの花茎にのぼる  
ネズミ。8月28日・31日・9月1日  
・5日・9日。



